

# 神の痛み

シリーズ～預言者の声～

2022/8/28

# 南ユダ王国の最後

- ヨシヤ (641–609) **善王**
  - エレミヤの召命 (ヨシヤ王の第13年)
- ヨアハズ (609)
- ヨヤキム (609–598) **悪王**
  - 605年 第一回目 バビロン捕囚
  - 597年 第二回目 バビロン捕囚
- ヨヤキン (598) **悪王**
- ゼデキヤ (597–586) **悪王**
  - 586年 第三回バビロン捕囚 **南ユダ王国滅亡**

# エレミヤの時代

- 異教崇拜（十戒の第一戒を破る）
  - 「ユダよ、お前の町の数ほど神々があり、お前たちはエルサレムの通りの数ほど、恥ずべきものへの祭壇とバアルに香をたくための祭壇を設けた。」11:13
- 誤った選民思想（神殿理解）
  - 「主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなし言葉に依り頼んではない。」7:4
- 偽預言者の横行
  - 「預言者の言葉はむなしくなる。『このようなことが起こる』と言っても／実現はしない。』」5:13

# 陶器

- 陶工である主(18章)
  - 「イスラエルの家よ、この陶工がしたように、わたしもお前たちに対してなしえないと言うのか、と主は言われる。見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある。」18:6
- 陶器を砕いての預言(19章)
  - 「あなたは、共に行く人々の見ているところで、その壺を砕き、彼らに言うがよい。万軍の主はこう言われる。陶工の作った物は、一度砕いたなら元に戻すことができない。それほどに、わたしはこの民とこの都を砕く。」19:10-11



# 軛(くびき)

## • 軛(くびき)の預言(27章)

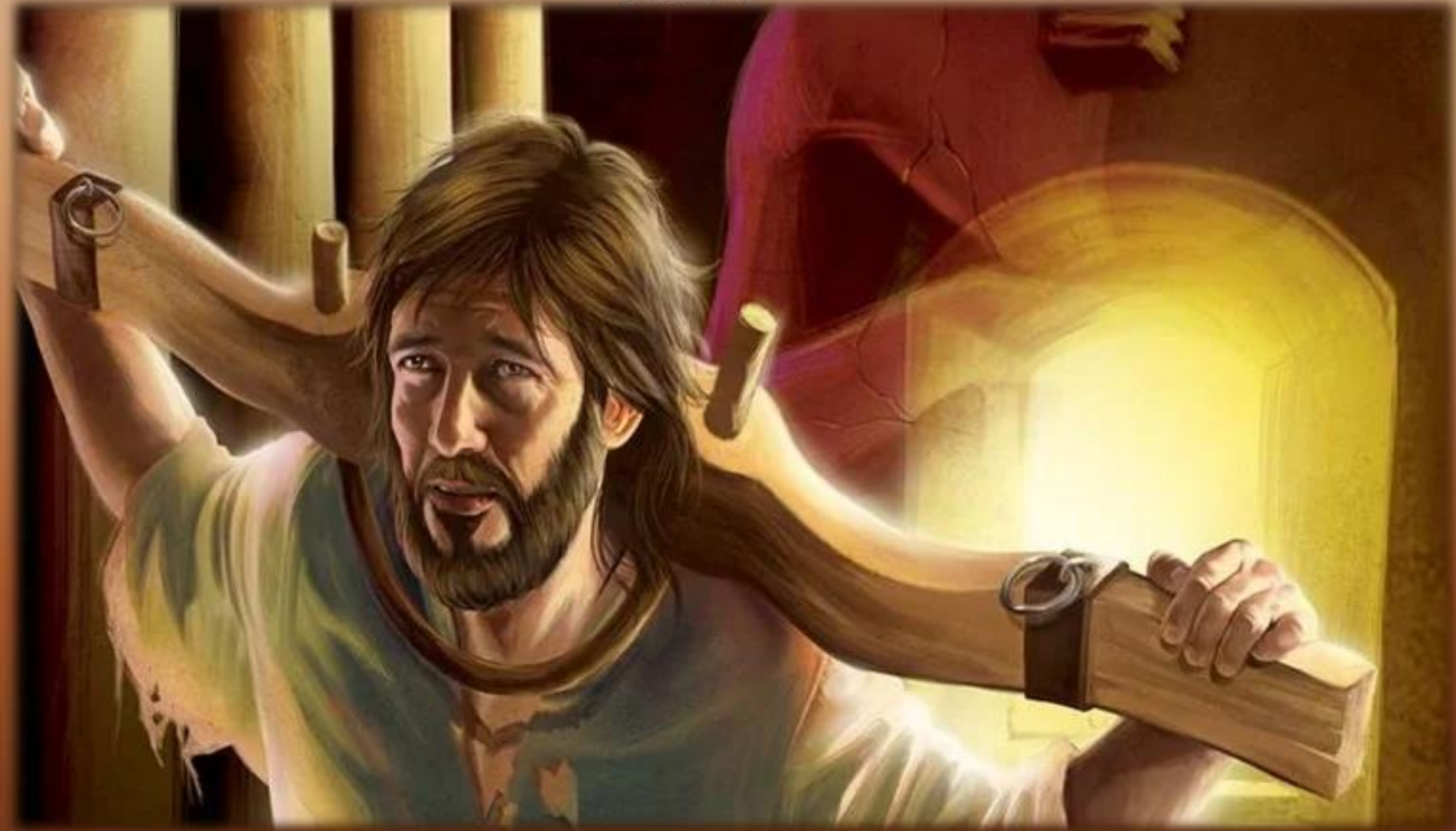
- 「主はわたしにこう言われる。軛の横木と綱を作って、あなたの首にはめよ。」27:2
- 「バビロンの王ネブカドネツアルに仕えず、バビロンの王の軛を首に負おうとしない国や王国があれば、わたしは剣、飢饉、疫病をもってその国を罰する、と主は言われる。」8

## • 偽預言者ハナンヤとの対決(28章)

- ハナンヤはエレミヤの軛を壊し、2年以内にバビロンから解放される、と語った
- 「行って、ハナンヤに言え。主はこう言われる。お前は木の軛を打ち砕いたが、その代わりに、鉄の軛を作った。…わたしは、これらの国すべての首に鉄の軛をはめて、バビロンの王ネブカドネツアルに仕えさせる。彼らはその奴隷となる。」28:13-14

# エレミヤの轆

Lesson 9



# 泥

## • エレミヤの宣告

- 「エレミヤがすべての民に次のように語っているのを聞いた。『主はこう言われる。この都にとどまる者は、剣、飢饉、疫病で死ぬ。しかし、出てカルデア軍に投降する者は生き残る。命だけは助かって生き残る。主はこう言われる。この都は必ずバビロンの王の軍隊の手に落ち、占領される。』」38:1-3

## • エレミヤ、泥に沈む

- 「役人たちは王に言った。『どうか、この男を死刑にしてください。あのようなことを言いふらして、この都に残った兵士と民衆の士気を挫いています。この民のために平和を願わず、むしろ災いを望んでいるのです。』ゼデキヤ王は答えた。『あの男のことはお前たちに任せる。…』そこで、役人たちはエレミヤを捕らえ、監視の庭にある王子マルキヤの水溜めへ綱でつり降ろした。水溜めには水がなく泥がたまっていたので、エレミヤは泥の中に沈んだ。」38:4-6



## • 助け出される

- 「エベド・メルクはその人々を連れて宮廷に帰り、倉庫の下から古着やぼろ切れを取って来て、それを綱で水溜めの中のエレミヤにつり降ろした。クシュ人エベド・メルクはエレミヤに言った。「古着とぼろ切れを脇の下にはさんで、綱にあてがいなさい。」エレミヤはそのとおりにした。そこで、彼らはエレミヤを水溜めから綱で引き上げた。そして、エレミヤは監視の庭に留めて置かれた」。38:11-13



## なぜ語り続けるのか

「主よ、あなたがわたしを惑わし／わたしは惑わされて／あなたに捕らえられました。あなたの勝ちです。わたしは一日中、笑い者にされ／人が皆、わたしを嘲ります。…主の名を口にすまい／もうその名によって語るまい、と思っても／**主の言葉は、わたしの心の中／骨の中に閉じ込められて／火のように燃え上がります。**押さえつけておこうとして／わたしは疲れ果てました。わたしの負けです。」 20:7,9

# 回復の預言

主はこう言われる。バビロンに七十年の時間が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしに出会うであろう、と主は言われる。わたしは捕囚の民を帰らせる。わたしはあなたたちをあらゆる国々の間に、またあらゆる地域に追いやったが、そこから呼び集め、かつてそこから捕囚として追い出した元の場所へ連れ戻す、と主は言われる。(29:10-14)

## 回復の背景 31章20節

- 抗いがたいわが子への憐れみ
  - 「エフライムはわたしのかけがえのない息子／喜びを与えてくれる子ではないか。彼を退けるたびに／わたしは更に、彼を深く心に留める。彼のゆえに、胸は高鳴り／わたしは彼を憐れまずにはいられないと／主は言われる。」
  - 「**エホバ**いひたまふ**エフライム**は我愛するところの子悦ぶ(よろこぶ)ところの子ならずや我彼にむかひてかたるごとに彼を念は(おもわ)ざるを得ず是をもて我腸(はらわた)かれの爲に痛む我必ず彼を恤む(めぐむ)べし」<文語訳>

母親がわが子に抱く心境

# 「神の痛みの神学」北森嘉蔵

- 世界で認められた日本の神学書
  - 1946年に刊行され、後に英語独語などに訳される
- エレミヤについて
  - 「エレミヤは「最も深く神の心を見た」人である。  
—パウロに示されたる「十字架における神」は、エレミヤにとっては「**痛みにおける神**」である…」
- 痛みに支えられた愛
  - 「この神の痛みは直ちに神の痛みに基礎づけられし愛である。「わがはらわた痛む」と訳された同一のヘブル語が「切なる仁慈(いつくしみ)」(イザヤ63:15)と訳されるゆえんである。」

# なぜ神は痛むのか

- いかなる罪をも包む神
  - 救いとは何であるか。救いとは、我々のこの破れたる現実を神があくまでも包み給う音ずれである。「徹底的に包み給う神」—これが救い主なる神である。
- 罪人を裁かねばならないがゆえに
  - 「いかにしても罪人に死を命じ給うべき神とこの罪人を愛せんとし給う神とが闘ったのである。…神はいかにしても包むべからざるものを包み給うが故に、彼御自身破れ傷つき痛み給うのである。」
- 怒りと愛の葛藤に痛みが生じる
  - 「神の真実の怒を神の愛が負いこれを克服するという事実こそ、神の痛みにはほかならぬ。」

# 神の自己対決

罪を裁かな  
ければなら  
ない  
神の正義

産み出した  
わが子に  
対する  
神の愛

# 神の自己対決が産み出す痛み

罪を裁かな  
ければなら  
ない  
神の正義

神  
の  
痛  
み

産み出した  
わが子に  
対する  
神の愛

「神の痛みは、神の怒りの対象を愛せんとし給う神の御心である」北森嘉蔵



# 神の自己対決が産み出した十字架

罪を裁かな  
ければな  
ない  
神の正義

産み出した  
わが子に  
対する  
神の愛

「御自身の傷をもって  
我々人間の傷をいやし給う主」北森嘉蔵

エフライムはわたしのかけがえのない  
息子／喜びを与えてくれる子ではないか。  
彼を退けるたびにわたしは更に、彼を深く  
心に留める。彼のゆえに、胸は高鳴り  
(心は痛み)／わたしは彼を憐れまずに  
はいられないと／主は言われる。